

瀬戸市防災地区カルテ
(平成26年度)

瀬 戸 市

1. 本書の目的

本書は、瀬戸市の連区ごとの防災対策の現状を分析したものです。

本書を用いて、市役所、消防および防災活動に係る市民が、現在の地域状況や防災関連情報を把握し、瀬戸市の地域防災計画の修正ならびに地域防災力向上のための防災・減災対策に役立てることを目的としています。

2. 対象地区について

本書は、瀬戸市の連区を基本として、次の 18 地区に分けて、各々の防災性を分析しています。ただし、原山台、萩山台、八幡台の 3 連区については、面積が小さく隣接しているうえ、住宅団地という地域性が共通していることから、1つの地区としてまとめ、「菱野団地」と称することとします。

- 1)道泉連区 2)深川連区 3)古瀬戸連区 4)東明連区 5)祖母懐連区 6)陶原連区
7)長根連区 8)效範連区 9)水南連区 10)水野連区 11)品野連区 12)下品野連区
13)西陵連区 14)菱野団地(原山台・萩山台・八幡台) 15)山口連区 16)本地連区
17)菱野連区 18)新郷連区

3. 分析方法について

本書では、次の 3 項目（社会条件、水害・土砂災害、地震災害）についての分析を行っています。

- A) 社会条件の分析 B) 水害・土砂災害の分析 C) 地震災害の分析

A) 社会条件の分析

a) 人口および世帯数に関する分析

階層別人口構成	■平成 22 年国勢調査による年齢階層別の人口と構成比
人口増減率図	■平成 12 年国勢調査と平成 22 年国勢調査における町別人口増減率を表示
65 歳以上人口比率図	■平成 22 年度国勢調査における町別の 65 歳以上の人口割合を表示

b) 建物に関する分析

木造・非木造構成比	■地区ごとの建物棟数における、建築年代別（耐震基準の変遷による 3 区分）および構造別（木造・非木造）の割合 ※対象とする建物は、建築面積が 30m ² 以上のものです。
新耐震基準以前の木造建物分布図	■平成 23 年度 都市計画基礎調査「建物利用現況図」を用いて、新耐震基準の昭和 56 年より前に建築された木造建物の 50m メッシュ内の棟数を表示 ※非木造建物は、木造に比べ地震の揺れによる倒壊率が低く、火災の延焼拡大が起こりにくいことから、都市の地震災害に対する脆弱性を表す指標として、木造建物の棟数（密度）を採用し、分布図として視覚化しました。

※階層別人口構成比および構造別（木造・非木造）構成比については、小数点以下を四捨五入しているため、合計が 100%とならない場合があります。

B) 水害・土砂災害の分析

a) 水害および土砂災害発生危険度に関する分析

水害・土砂災害危険度図	<ul style="list-style-type: none"> ■ 風水害時の避難所・緊急避難場所の位置を表示 ■ 地区内に設定されている浸水想定区域、土砂災害特別警戒区域および土砂災害警戒区域を表示 ■ 地区内において過去 30 年以内に発生した水害発生箇所を表示
土砂災害警戒区域内にある建物棟数	<ul style="list-style-type: none"> ■ 土砂災害特別警戒区域内および警戒区域内にある建物棟数 <p>※対象とする土砂災害は急傾斜地の崩壊および土石流です。</p>
浸水想定区域内にある建物棟数	<ul style="list-style-type: none"> ■ 浸水想定区域内にある建物棟数（本地連区のみ）

b) 水害および土砂災害発生時における避難に関する分析

風水害時の避難所・緊急避難場所の対象範囲図	<ul style="list-style-type: none"> ■ 風水害時の避難所・緊急避難場所までの距離が直線距離で 700m 以内の地域を表示
風水害時の避難所・緊急避難場所一覧	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地区内および近隣地区にある風水害時の避難所・緊急避難場所 ■ 収容定員（目安）は、直後（1 m²/人）、初期（2 m²/人）、長期（3 m²/人）により推計
浸水想定区域内にある建物棟数	<ul style="list-style-type: none"> ■ 浸水想定区域内にある建物棟数（本地連区のみ）

C) 地震災害の分析

a) 地震災害発生危険度に関する分析

液状化危険度図	<ul style="list-style-type: none"> ■ PL 値（液状化指標）および地形分類図より、液状化発生の危険度を判別し、表示 <p>※南海トラフを震源とする巨大地震が発生した場合を想定しています。</p>
建物倒壊危険度図	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地震の揺れ（計測震度、地表最大速度）および建物の建築年代・構造により建物倒壊率（全壊または半壊する建物の割合）を算出し、表示 <p>※南海トラフを震源とする巨大地震が発生した場合を想定しています。</p> <p>※建物倒壊率には、木造建物だけでなく非木造建物の倒壊も含んでいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 狭隘道路（幅員 4m 未満）を表示

b) 地震災害発生時における避難に関する分析

地震時の避難所・緊急避難場所の対象範囲図	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地震時の避難所・緊急避難場所までの距離が 700m 以内の地域を表示 ■ 急傾斜道路（勾配 10 度以上）および地区内の狭隘道路（幅員 4m 未満）を表示
地震時の避難所・緊急避難場所一覧	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地区内および近隣地区にある地震時の避難所および緊急避難場所 ■ 収容定員（目安）は、直後（1 m²/人）、初期（2 m²/人）、長期（3 m²/人）により推計

地区ごとの水害・土砂災害に関する分析の概要

地区名	分析の概要
1. 道泉連区	<ul style="list-style-type: none"> ■過去に水害が発生した箇所がある。また、連区北西部および東部に土砂災害特別警戒区域および土砂災害警戒区域が存在する。 ■連区北東部に風水害時の避難所までの距離が離れている地域が存在する。
2. 深川連区	<ul style="list-style-type: none"> ■過去に大規模な水害が発生した箇所がある。また、連区南東部に土砂災害特別警戒区域および土砂災害警戒区域が存在する。 ■連区北部に風水害時の避難所までの距離が離れている地域が存在する。
3. 古瀬戸連区	<ul style="list-style-type: none"> ■過去に水害が発生した箇所がある。また、連区南東部に土砂災害特別警戒区域および土砂災害警戒区域が集中して存在する。 ■連区北部に風水害時の避難所までの距離が離れている地域が存在する。
4. 東明連区	<ul style="list-style-type: none"> ■過去に水害が発生した箇所がある。また、山間部において、土砂災害特別警戒区域および土砂災害警戒区域が存在する。 ■山間部のほぼ全域にて、風水害時の避難所までの距離が離れている。
5. 祖母懐連区	<ul style="list-style-type: none"> ■過去に水害が発生した箇所がある。また、連区北部、中央部、南西部に土砂災害特別警戒区域および土砂災害警戒区域が存在する。 ■居住地域のほぼ全域で、近隣に風水害時の避難所が存在する。
6. 陶原連区	<ul style="list-style-type: none"> ■過去に大規模な水害が発生している。 ■連区南西部に風水害時の避難所までの距離が離れている地域が存在する。
7. 長根連区	<ul style="list-style-type: none"> ■矢田川沿いにて過去に水害が発生している。また、一部土砂災害特別警戒区域および土砂災害警戒区域が存在する。 ■連区北東部、南部に風水害時の避難所までの距離が離れている地域が存在する。
8. 效範連区	<ul style="list-style-type: none"> ■連区南東部に土砂災害警戒区域が存在する。 ■連区西部の広い範囲にて、風水害時の避難所までの距離が離れている。
9. 水南連区	<ul style="list-style-type: none"> ■連区北部に土砂災害特別警戒区域および土砂災害警戒区域が存在する。 ■連区北部に風水害時の避難所までの距離が離れている地域が存在する。
10. 水野連区	<ul style="list-style-type: none"> ■余床町および曾野町など、土砂災害特別警戒区域および土砂災害警戒区域として設定されている地域が複数ある。 ■水野川沿いおよび庄内川沿いにて過去に水害が発生した箇所がある。 ■連区東部および北部では、風水害時の避難所までの距離が離れている。
11. 品野連区	<ul style="list-style-type: none"> ■主要な河川沿いに土砂災害特別警戒区域および土砂災害警戒区域が集中し、上品野町では多くの建物が土砂災害特別警戒区域および土砂災害警戒区域にある。 ■山間部の広い範囲で風水害時の避難所までの距離が離れている。
12. 下品野連区	<ul style="list-style-type: none"> ■過去に水害が発生した箇所がある。また、落合町に土砂災害特別警戒区域および土砂災害警戒区域が集中している。 ■連区中央部を除き、風水害時の避難所までの距離が離れている地域が存在する。
13. 西陵連区	<ul style="list-style-type: none"> ■連区北東部に土砂災害特別警戒区域および土砂災害警戒区域が存在する。 ■連区北部に風水害時の避難所までの距離が離れている地域が存在する。
14. 菱野団地 (原山台・萩山台・八幡台)	<ul style="list-style-type: none"> ■原山連区に土砂災害特別警戒区域および土砂災害警戒区域が存在する。 ■八幡連区の一部に風水害時の避難所までの距離が離れている地域が存在する。
15. 山口連区	<ul style="list-style-type: none"> ■連区北部に土砂災害特別警戒区域および土砂災害警戒区域が存在する。 ■連区中央部を除くほとんどの地域で風水害時の避難所までの距離が離れている。
16. 本地連区	<ul style="list-style-type: none"> ■矢田川と瀬戸川の合流点に浸水想定区域が存在する。 ■連区中央部に土砂災害特別警戒区域および土砂災害警戒区域がある。 ■連区南西部に風水害時の避難所までの距離が離れている地域が存在する。
17. 菱野連区	<ul style="list-style-type: none"> ■浸水想定区域および土砂災害警戒区域は設定されていない。 ■連区南部に風水害時の避難所までの距離が離れている地域が存在する。
18. 新郷連区	<ul style="list-style-type: none"> ■浸水想定区域および土砂災害警戒区域は設定されていない。 ■連区内に風水害時の避難所がない。連区北部が風水害時の避難所まで離れている。

地区ごとの地震災害に関する分析の概要

地区名	分析の概要
1. 道泉連区	<ul style="list-style-type: none"> ■連区南部の市街地を中心に、耐震性の低い建物が倒壊する割合が高い。 ■連区の全域にて、近隣に地震時の避難所が存在する。
2. 深川連区	<ul style="list-style-type: none"> ■連区のほぼ全域で耐震性の低い建物が倒壊する割合が高い。 ■連区のほぼ全域にて、近隣に地震時の避難所が存在する。
3. 古瀬戸連区	<ul style="list-style-type: none"> ■連区西部の沖積地の一部で液状化の可能性が非常に高い。 ■連区南西部の市街地を中心に、耐震性の低い建物が倒壊する割合が高い。 ■連区北部に地震時の避難所までの距離が離れている地域が存在する。
4. 東明連区	<ul style="list-style-type: none"> ■赤津川沿いの中畑町・八王子町付近では、液状化の危険性が高い。 ■山間部では、地震避難場所までの距離が離れており、また土砂災害による道路閉塞の可能性もある。
5. 祖母懐連区	<ul style="list-style-type: none"> ■連区北西部の市街地を中心に、耐震性の低い建物が倒壊する割合が高い。 ■連区の全域にて、近隣に地震時の避難所が存在する。
6. 陶原連区	<ul style="list-style-type: none"> ■連区北東部と南部にて耐震性の低い建物が倒壊する割合が高い。 ■連区の全域にて、近隣に地震時の避難所が存在する。
7. 長根連区	<ul style="list-style-type: none"> ■連区中央部に耐震性の低い建物が倒壊する割合の高い地域がある。 ■連区北東部に地震時の避難所までの距離が離れている地域が存在する。
8. 效範連区	<ul style="list-style-type: none"> ■連区中央部にて、狭隘道路が集中している地域がある。 ■東山小学校周辺にて、液状化の危険性が高い。 ■連区南西部と東部に地震時の避難所までの距離が離れている地域が存在する。
9. 水南連区	<ul style="list-style-type: none"> ■連区中央部に液状化の可能性が高い地域が存在する。 ■連区のほぼ全域にて近隣に地震時の避難所が存在するが、幅員が狭く傾斜が大きい道路が多く、円滑な避難が困難となる可能性がある。
10. 水野連区	<ul style="list-style-type: none"> ■水野川沿いに、液状化の可能性が高い地域がある。 ■連区東部および北部にて地震時の避難所まで離れている地域が存在する。また、土砂災害による道路閉塞の可能性もある。 ■耐震性の低い建物が倒壊する割合が高い地域が存在する。
11. 品野連区	<ul style="list-style-type: none"> ■川沿いに液状化の可能性が高い地域が存在する。 ■山間部では地震時の避難所までの距離が離れ、土砂災害による道路閉塞の可能性もある。
12. 下品野連区	<ul style="list-style-type: none"> ■道路幅員の狭い道路が集中している地域がある。また、水野川沿い、紺屋田川沿いで液状化の危険性が高い。 ■連区中央部を除き、地震時の避難所までの距離が離れている。
13. 西陵連区	<ul style="list-style-type: none"> ■連区全域にて耐震性の低い建物が倒壊する割合が低い。 ■連区全域にて近隣に地震避難場所が存在する。
14. 菱野団地 (原山台・萩山台・八幡台)	<ul style="list-style-type: none"> ■連区全域にて耐震性の低い建物が倒壊する割合が低い。 ■連区全域にて近隣に地震避難場所が存在する。
15. 山口連区	<ul style="list-style-type: none"> ■矢田川沿いに液状化の可能性が高い地域がある。 ■連区南西部から東部にかけての広い地域で、地震時の避難所までの距離が離れている。
16. 本地連区	<ul style="list-style-type: none"> ■耐震性の低い建物が倒壊する割合がやや高い地域が連区内の広範囲に分布している。 ■矢田川および本地川沿いに、液状化の可能性が高い地域が存在する。 ■連区南西部の広い範囲にて、地震時の避難所までの距離が離れている。
17. 菱野連区	<ul style="list-style-type: none"> ■矢田川沿いに液状化の可能性が高い地域が存在する。 ■連区のほぼ全域にて、近隣に地震避難場所が存在する。
18. 新郷連区	<ul style="list-style-type: none"> ■連区北部に耐震性の低い建物が倒壊する割合がやや高い地域が点在する。 ■連区の全域にて、近隣に地震時の避難所が存在する。